

## 重症心身障害児（者）病棟におけるより良い情報用紙をめざして ～基礎情報に関する看護師の意識調査を利用した一考察～

定本菜穂子<sup>1)</sup> 坂出奈保美<sup>1)</sup> 濱田千尋<sup>1)</sup> 和田由貴子<sup>1)</sup> 小林里美<sup>1)</sup> 田中英美<sup>1)</sup>\*

1) 国立病院機構鳥取医療センター8病棟

## Towards better information sheets for children (persons) with severe motor and intellectual disabilities

– An attitude survey for nurses regarding basic information sheets for inpatients –

Naoko Sadamoto<sup>1)</sup>, Naomi Sakade<sup>1)</sup>, Chihiro Hamada<sup>1)</sup>, Yukiko Wada<sup>1)</sup>,  
Satomi Kobayashi<sup>1)</sup>, Hidemi Tanaka<sup>1)</sup>\*

1) The 8th Ward, Department of Nursing, NHO Tottori Medical Center

\*Correspondence: byoutou8@tottori-iryu.hosp.go.jp

### 要旨

G病棟の重症心身障害児(者)のH病棟では、情報用紙が基礎情報用紙として十分に機能していなかった。そこで、病棟カンファレンスとアンケートによる調査を行った。その結果、①健康状態の評価が出来ない、②消失又は不正確になる恐れのある情報がある、③患者の問題が理解しにくい、という3点に対し、職員の問題意識が高いことが明らかになった。この3点に関して情報用紙の記載を追加したところ、情報用紙の基礎情報用紙としての機能に対する職員の評価は大幅に改善した。この改善を図る中で、当病棟特有の基礎情報用紙のあり方が明らかになった。鳥取臨床科学 2(2), 165-173, 2009

### Abstract

Information sheets for children and persons with severe motor and intellectual disabilities used in Ward H of Hospital G have not been useful. To make the sheets informative, we first conducted an attitude survey for nurses in Ward H, which consisted of several questionnaires about the information sheets, as follows: (i) purpose of use, (ii) frequency of use, (iii) informativeness, and (iv) problems to be improved, and (v) sources of basic information on inpatients. By analyzing the answers to this survey, we noticed three issues: 1. inability to assess the medical condition of inpatients; 2. potential for inpatient information to disappear or become obscure; 3. inability to understand the most important problems of inpatients. We improved the information sheets by the addition of several statements related to the aforementioned three issues, and investigated this improvement with an auditing developed by Iwai. As a result, to make the sheets for inpatients sufficiently informative, it is recommended to write clearly and to specify the necessary issues related to the aforementioned three issues, with the intention to communicate with staff members on the ward, rather than oral transmission. *Tottori J. Clin. Res.* 2(2), 165-173, 2009

Key Words: 重症心身障害児(者)病棟, 基礎情報, 情報用紙; children and persons with severe motor and

はじめに

看護記録の構成要素として、日本看護協会<sup>1)</sup>は、まず基礎情報を挙げている。G 病院の重症心身障害児(者)病棟で、この基礎情報を記載するのは情報用紙であるが、H 病棟では十分に活用されているとは言い難く、「年度末のカルテ整理の時しか見ない」という意見も多い。その原因として、情報用紙のあり方が現状に適していないと考えられた。基礎情報の記載について岩井<sup>2)</sup>は「病院の特徴、急性期か長期療養タイプや患者の特性によっても異なる」と述べてい

る。基礎情報用紙に関する先行研究を検索したところ、在院日数が少なく治療や検査を目的とした施設における研究は多いが、H 病棟のような長期の契約入院を主とする重症心身障害児(者)病棟については、近年の研究はなかった。そこで、病棟スタッフを対象として、カンファレンスとアンケートを用いてH病棟の基礎情報に関する問題を明らかにし、改善を試みた。その過程において、長期入院となった重症心身障害児(者)の看護に適した基礎情報用紙のあり方を検討した。その結果をここに報告する。

氏名	〇〇 〇〇様	作成日	△月 △日	記録者	看護師 Q
項目	状況 (現症)	看護ケア		その他	
発達	知能指数 113 (11~12歳) 言語性 IQ82 (正常に近い)	尊厳を傷つけない関わりをする。			
コミュニケーション	トーキングエイド使用可能。日常的な言語理解良好。 言語表現は出来るが、構音障害があり、聞き取りにくいことがある。	聞き慣れて状況把握することが必要。ゆっくりと傾聴する。			
移動	右手を床につき、下肢を引きずって移動 (痙性四肢麻痺: 右側<左側)。 電動車椅子にて、病院内自由に移動。	車椅子移乗時, 2人で介助。		売店禁止 (カルテ参照)。	
食事	重心 4号, 米飯。 低脂肪牛乳 (胆石既往の為)。 自力摂取可能。 電動車椅子時 3号室の前で摂取。 1号室ではテーブル使用。 水分はコップを使用。 水分摂取は 1日 1600 ml	箸使用。料理によってはスプーン希望。 夕食時の飲用, 内服薬は介助。 水分: 朝 200 ml × 3 (お茶) 昼 200 ml (お茶) おやつ 200 ml 夕 200 ml × 2 (お茶) と低脂肪牛乳		全種類の魚は禁。 (本人希望, アレルギー?) マヨネーズは脂肪分を考え調節している。	
以下 項目続く					

図 1 G 病院記録委員会が規定する記録用紙の書式 (記入例)